

財務会計論

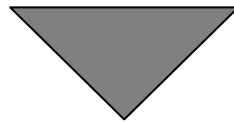
本試験

問題 1 会計主体論の意義と役割に関する次の記述について、正しいものには○、誤っているものには×を付すとき、正しい組合せとして最も適切なものの番号を一つ選びなさい。（8 点）

ア. 企業を資金提供者から独立した主体と捉え、株主と債権者を共に企業外部者として位置付ける考え方を、企業主体理論という。この考え方を徹底させた場合、支払配当金と支払利息は同一の性格を有するものとみなされることになる。

《解答 1》

ア. 正 本肢の記述は正しい。企業主体理論の考え方を徹底させた場合、支払配当金と支払利息はどちらも企業外部者に対する支払いとされ、同一の費用項目としての性格を有するものとみなされる。



短答ポイントアップ答練 第 2 回

問題 1 財務会計の機能や基礎概念に関する次のア～エの記述のうち、正しいものが二つある。その記号の組合せの番号を一つ選びなさい。（8 点）

～ 略 ～

ウ. 企業を資本主から独立した存在とみて、会計の主体を企業それ自体とする見解に立てば、株式会社において株主と債権者はいずれも企業の外部者として位置付けられるため、支払配当金と支払利息の性格は同じものとされる。

《解答 1》

ウ. 正 本肢の記述は正しい。なお、企業を資本主の所有物であるとみて、会計の主体を資本主とする見解（資本主理論）に立てば、株式会社において株主は企業の外部者たる債権者とは異なる位置付けとなるため、支払配当金と支払利息の性格は異なるものとされる。